

# 地域を知ろう(21)

## 民話・伝説

### No.1 豆腐地蔵

江戸庶民の信仰を集めた

#### 豆腐地蔵

物語の主役の地蔵さんは、高円寺南二丁目三十一番、通称寺町通り一番東端にある長龍寺の境内にある地蔵堂に祀られています。

伝説はお寺がこの地に移ってくる前の市ヶ谷佐内坂のころのことです。近くの豆腐屋へ、夕方になると小坊主が豆腐を買いに来ました。この坊主が来たあとは、必ず銭に一枚の木の葉が交わっていました。「これはあの坊主の仕業だ」と役人に訴え出たので、「狐か狸が化けたに違いない」と役人は坊主の現われるところを見計らって張り込をしました。やがていつものように坊主がやって来て、銭を置いて豆腐を持って行くようになりました。張り込んでいた寺社奉行の役人は、「おい待て」と声をかけると、坊主は走り出そうとしました。「待つんだ」と役人が後

ろから一太刀あびせました。坊主の姿は消え、血のついた耳の型の石が落ちていました。点々と血跡の後をたどって行くと、長龍寺門前に立っている地蔵の前で止まっていました。ふと地蔵を見上げると、片耳のない地蔵が恨めしげに役人を見おろしています。「あっ、お地蔵様だったのか」と人々は驚き、斬りつけた役人は後悔のあまり髪をそり、出家をして長龍寺へ弟子入りしました。豆腐屋の親父も、毎朝、地蔵様に豆腐を供え、そのためか店は益々繁昌し、巢鴨の「とげ抜き地蔵」と共に江戸の人々の信仰を集めていたのです。

